

NPO法人日本アレルギー友の会

「新薬を知ろう！」

ぜんそく・アトピー性皮膚炎 講演会とQ&A

11月15日(日) 12:30~16:00

東医健保会館ホール(JR「信濃町駅」より徒歩5分) **無料**

■講師紹介と患者への一言アドバイス■

「ぜんそく患者のための新型インフルエンザ対策」坂本芳雄先生(公立学校共済組合関東中央病院呼吸器・アレルギー内科部長) / 「アトピー性皮膚炎の患者向け一言アドバイス」江藤隆史先生(東京通信病院皮膚科部長)

■講演■

- ①「成人重症アトピー性皮膚炎に対するシクロスポリン内服療法」五十嵐敦之先生(NTT 東日本関東病院 皮膚科部長)
- ②「成人喘息における新薬情報」秋山一男先生(独立行政法人国立病院機構相模原病院院長)

■申込み■電話またはFAX、メールにて受付。

TEL03-3634-0865 (祝祭日を除く毎週火・土曜日と11/9~11/14 11:00~16:00) FAX03-3634-0850 E-mail:j-allergy@nifty.com

セミナー情報

平成21年度厚生労働省免疫アレルギー疾患予防・治療研究推進事業
 アレルギーシンポジウム in 仙台

「お母さん悩まないで！ 知って欲しい食物アレルギーのすべて」

12月13日(日) 13:00~16:30 **無料**

仙台国際センター大会議室「橘」

(「仙台駅前」より市営バス「博物館・国際センター前」徒歩1分)

■講演■

- ①「知ってほしい食物アレルギーの基礎知識」森川 みき先生(森川小児科アレルギー科クリニック 副院長)
- ②「知ってほしいアトピー性皮膚炎と食物アレルギーの関係」赤澤 晃先生(国立成育医療センター 総合診療部小児期診療科 医長)
- ③「知ってほしい除去食、代替食」林 典子先生(独立法人 国立病院機構 相模原病院臨床研究センター 管理栄養士)

■パネルディスカッション■コーディネーター / 秋山一男先生(独立行政法人国立病院機構相模原病院院長・臨床研究センター長)、パネリスト / 森川 みき先生、赤澤 晃先生、林 典子先生、園部 まり子(NPO法人アレルギーを考える母の会代表)

■申込み■ホームページ「医療と健康のシンポジウム」
<http://www.sympo.jp/>の申込みフォーム、又は、ホームページ内の FAX 申込み用紙から(財)日本予防医学協会内リウマチ・アレルギーシンポジウム Part1事務局宛に FAX。

「第10回食物アレルギー研究会」

2010年2月13日(土) 昭和大学上條講堂
 (東京都品川区・東急池上線・大井町線「旗の台駅」東口徒歩7分)

■詳細■「食物アレルギー研究会」ホームページに順次掲載予定 <http://foodallergy.jp/>

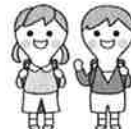
■事務局連絡先■国立病院機構相模原病院 臨床研究センターアレルギー性疾患研究部「第10回食物アレルギー研究会事務局」担当：今井孝成、林典子
 TEL：042-742-8311(代表) FAX：042-742-7990

E-mail：info@foodallergy.jp

公的信頼情報を活用しよう

■学校保健ポータルサイト

学校保健▼ <http://www.gakkohoken.jp/>



- ★「学校のアレルギー疾患に対する取り組みQ&A」アレルギー疾患用学校生活管理指導表やエピペンの取り扱いについてなど、保護者、学校職員の安心をサポートする28項目が10月よりUP。
- ★学校生活管理指導表(アレルギー疾患用) ダウンロード可

■環境再生保全機構の無償 new ツール

環境再生保全機構▼ >ぜん息などの情報館>サービスより取り寄せ可。 <http://www.erca.go.jp/>

- ★「ぜん息悪化予防のための小児アトピー性皮膚炎ハンドブック」 A4冊子[HPにPDFあり]
- ★「ぜん息日誌」 男児用(しんかんせん) / 女児用(マイメロディ) / 大人用
- ★保健指導用「ZensokuABC〜クリアーホルダー」 ①小児ぜん息の病態・治療②ぜん息日誌：アレルギーの除去対策③小児に用いられる主なぜん息の薬



救急隊のエピネフリン使用ルールの検討開始。学校と消防機関の連携へ

今年3月の厚労省の通知により、自己注射できるエピネフリンを携帯している患者について、救急救命士による投与が可能となった。このほど実際に救急救命士が運用する際のルール作りが始まり年内にはまとまる見通し。

検討会事務局はエピペンの取り扱いについて、
 ▼エピペンを処方されている児童がいる場合の学校と消防機関との情報共有などの連携

- ▼119番通報時に指示を求められた場合の助言の必要性
- ▼現場での全身状態の観察や気道確保などの処置の概要
- ▼アレルギーとの接触可能性や既往歴、エピペン使用の有無などの聴取
- ▼本人や家族からエピペン使用を依頼された場合の実施者の優先順位(救急救命士、学校教諭など)一などを論点としている。(株)ロハスメディアニュース6月15日配信より



食物アレルギー研究会▼

食物負荷試験実施施設一覧(外来・入院)が閲覧可。「食物アレルギーの診療の手引き2008」、「食物アレルギーの栄養指導の手引き2008」などがダウンロードできます! <http://foodallergy.jp/>

epipen.jp ▼ エピペンの打ち方が動画で見られます。(マイラン製薬(株)運営サイト)



●アレルギー相談室のご案内●

かながわ県民センター15F 相談室①
 (横浜駅西口徒歩5分)

- 来所相談■毎月第4火曜日 10:00~12:00
- TEL相談■045-312-1121(相談室)
- FAX相談■045-312-6307(相談室)

来所・電話・FAXどちらでもお気軽に(相談無料)



当会がこれまでに相談にのって頂いた医療機関の中から

2009年版 東京・神奈川版
★は食物負荷試験を実施



- ★国立成育医療センター 総合診療部小児期診療科●赤澤晃先生 アレルギー科●大矢幸弘先生
※毎週「ぜん息教室」や「アトピー教室」を開催、指導医のもとでチーム医療を実施
東京都世田谷区大蔵 2-10-1 ☎03-3416-0181

- ★国立病院機構相模原病院 内科・アレルギー科●秋山一男先生・谷口正実先生 小児科●海老澤元宏先生・今井孝成先生
相模原市桜台 18-1 ☎042-742-8311

- ★国立病院機構神奈川病院 小児科●野村伊知郎先生・渡辺博子先生・萬木晋先生・萬木暁美先生
秦野市落合 666-1 ☎0463-81-1771

- ★神奈川県立こども医療センター アレルギー科●栗原和幸先生・高増哲也先生 横浜市南区六ッ川 2-138-4 ☎045-711-2351

- ★公立学校法人横浜市大付属病院 皮膚科●池澤善部先生・相原道子先生 横浜市金沢区福浦 3-9 ☎045-787-2800

- ★横浜市大市民総合医療センター 皮膚科●蒲原毅先生 小児科●相原雄幸先生 横浜市南区浦舟町 4-57 ☎045-261-5656

- 東京通信病院 皮膚科 皮膚科部長●江藤隆史先生 東京都千代田区富士見 2-14-23 ☎03-5214-7111

- ★東京慈恵医科大学附属第三病院 小児科●田知本寛先生 東京都狛江市和泉本町 4-11-1 ☎03-3480-1151



■「子どものアレルギーのすべてがわかる本」

- 監修他/海老澤元宏先生(国立相模原病院臨床研究センターアレルギー性疾患研究部長)
- 定価(税込): 1,260 円/講談社

これまでアトピー性皮膚炎、ぜん息など、個々のアレルギーに関する本は出版されてきました。けれど、アレルギーは総合的にとらえなくてはならない病気です。正しい知識とじっくり取り組む覚悟が必要です。(まえがきより)

〈目次〉

- 第1章 アレルギーマーチ つらい症状。もとにあるものはすべて同じ
- 第2章 アトピー性皮膚炎 三本柱の治療で気長にコントロール
- 第3章 食物アレルギー 正しい診断と必要最小限の食物除去を
- 第4章 ぜんそく 上手に予防して発作を防ぐ
- 第5章 いろいろなアレルギー 新タイプのアレルギーも増えている



■無理なく簡単! 「子供が喜ぶ 食物アレルギーレシピ100」

お母さんの負担が軽くなる! 食物アレルギーと上手につきあうコツをたくさん紹介!

- 監修/海老澤元宏先生(国立相模原病院臨床研究センターアレルギー性疾患研究部長)
- 栄養監修/林 典子先生・長谷川実穂先生(国立病院機構相模原病院 臨床研究センターアレルギー性疾患研究部研究員 管理栄養士)
- 定価(税込) 1,155 円/成美堂出版

- 特徴① 最新の研究成果に基づいた食物アレルギーの対応が正しく理解できる
- 特徴② 家族みんなで一緒に食べられてしかも簡単なレシピが満載!
- 特徴③ 卵、牛乳、小麦を使わないで作る離乳食や、子供たちに人気の定番のおかず、おいしい幼児食メニュー
- 特徴④ 食物アレルギーでも食事が楽しくなる行事食、おやつレシピも豊富!
- 特徴⑤ 加工食品の利用の仕方と卵、牛乳、小麦を使わない食材も豊富に紹介



■近刊「食物アレルギーAtoZ(仮題)」

初の栄養士向け「食物アレルギー」専門書 第一出版より 2010年2月刊行予定。管理栄養士や栄養士ばかりでなく、薬剤師、小・中・高教諭、農学や栄養・食品・薬学系の大学生、食物アレルギー児の保護者など多くの方に。

〈主要目次〉

- ◆1章◆食物アレルギーの基礎
- ◆5章◆医薬品と食物アレルギー
- ◆2章◆食物アレルギーの原因食品
- ◆6章◆統計的な調査の設計
- ◆3章◆アレルギー対応食品、低アレルゲン化食品の現状と今後の動向
- ◆7章◆食物アレルギーの子ども、及び保護者に対する支援
- ◆4章◆社会における対応の現状と対策
- ◆8章◆食物アレルギー対応食の基礎と応用